



お客様とともに学び生活に寄り添った、
地域密着型の3R活動



ふくろクラゲ

株式会社 フレスタ



トレーがに

企業紹介



1887年に創業した株式会社フレスタは、1950年代より広島県を中心に中国地方で食品スーパーマーケットチェーンを展開。お客様の「健康的なライフスタイルの実現」のために、より良い商品やサービスを提案し続ける「正直」な企業グループを目指しています。また、地域の健康づくりをはじめ、環境に配慮した店舗づくり、プラスチックごみの削減、食品ロス対策など、SDGsに関する取組にも積極的にチャレンジしています。

取組事例のご紹介

Recycle (リサイクル) プラスチック資源循環への取組



リサイクル回収ボックス(上)とリサイクルステーション(下)

「リサイクル回収ボックス」と「リサイクルステーション」を設置し、お客様参加型の活動を実施

約30年前より、包装容器のリサイクル推進に向けた活動を実施しています。古紙・雑紙・新聞紙、ペットボトル、アルミ缶、食品トレイ、牛乳パックの回収ボックスを設置。利用を終えたものを資源に変え、国内循環させることで、地域の方々とともに持続可能な社会形成に取り組んでいます。また、回収量に応じてフレスタスマイルカードポイントを付与する「リサイクルステーション」を導入。「お客様参加型のリサイクル活動」として多くの方に利用いただいています。

* 店舗により回収している資源が異なります。

プラスチック回収量 年間約750トン
(ペットボトル、食品トレイ、透明トレイ回収量の合計値 フレスタ65店舗対象 令和5年度実績)



何度でも使用・回収して生まれ変わる エコトレ®・エコAPET®などを積極的に使用

食品トレイメーカー「株式会社エフビコ」との協業で、食品トレイのリサイクル活動によるCO₂削減目標を設定し、食品トレイの回収量およびエコトレ®使用比率を向上させることを目標としています。現在店頭に並ぶ生鮮食品のパッケージとして使われるトレイの100%がエコトレ®で、そのうちの64.9%が再度リサイクル利用されています。

食品トレイのリサイクル活動で削減できたCO₂量 486トン
(令和6年度実績、フレスタ64店舗対象)



地域とともに3R活動



海ごみを素材にアートを創る ワークショップや 店舗で環境学習イベントの開催

海洋プラスチックごみ削減に向けた取組を加速させていくことを目的とした、参加型啓発イベントを開催。海岸に漂着した海ごみの展示や、海ごみを素材にしたワークショップで、今まで関心なかった子供たちも、環境問題をより身近に感じられたようです。また、エフビコとのコラボイベント「エフビコ工場見学ツアー」も開催。トレイやペットボトルがどのようにリサイクルされるのかをわかりやすく学ぶことができ、リサイクルへの関心を深める内容となりました。

2009年には中四国の小売業として初めて、日本政策投資銀行の環境格付審査で「環境への配慮に対する取り組みが十分(Cランク)」と評価され、2023年には「先進的(Bランク)」を取得するなど、**環境への活動を着実に進化**させています。

エフビコとの協業で、トレイのリサイクル活動を通じたCO₂削減目標を設定し、トレイの回収量とエコトレ®使用比率を向上。環境経営を目指します。例えばレジ袋の有料化では、2003年2月からレジ袋持参のお客様にエコポイントを付与。現在では85%を超えるレジ袋持参率となっています。

環境配慮が
着実に習慣化
している証だね♪



プラスチック3R活動に関して お聞きしました

「フレスタ津島店」へ インタビューに行ってきました!



お話を伺ったのは
恩田 店長



Q. おかやまプラスチック3R宣言事業所への登録のきっかけは何ですか?

A. 環境問題をより身近な「自分ごと」として捉えるためには、日々の業務や生活のなかで環境について理解を深め、考え、具体的な行動につなげていくことが重要だと考えています。「おかやまプラスチック3R宣言事業所」に登録したことで、課題解決に向けた意識を一層高めながら、今後も継続してプラスチック削減に取り組んでまいります。

Q. 取り組んでいく中で、難しかったことや苦労したことはありますか?

A. 取組を始めた当初は、お客様にとって回収できるものとできないものの区別が難しく、回収後に再度従業員が手作業で分別を行なっていました。そこで、食品トレイに関しては、現物を回収ボックスの前に貼り付けるなどしてわかりやすくする工夫をしました。お客様にリサイクル回収を理解していただくまでには、時間も労力もかかりました。今ではお客様の意識が高まり、回収もスムーズに。お客様の意識の向上は従業員にとっても嬉しいことで、取組へのモチベーションアップにつながっています。

Q. 取り組んだ結果、お客さまからの反応はどうでしたか?

A. お父さんお母さんと一緒にペットボトルを持ってきてくれた子ども達が、回収ボックスにペットボトルを入れたり、ポイントカードを機械に通す様子を目にするようになりました。大人だけでなく、子ども達の意識も変わってきているように思っていて、このような取組が、未来を担う子ども達の育成に役立っていることを実感しています。今後も環境への取組が続くことで、よりよい地球環境を次世代へ受け継いでいけることを願っています。

Q. 今後の目標などがあれば教えてください。

A. 現在、リサイクル資源の回収にどれだけお客様がご協力くださったかを数値化し、感謝の気持ちを込めて売り場にポスターを表示しています。それを見て、お客様もさらにご協力くださるという良い循環がなされています。今後も、SNSを活用しながら、お客様にさらなる「良かったこと」を配信していきたいと考えています。お客様あつての活動ですから、楽しみながら進めていければと思っています。